



江藤 幹子さん

## こども食堂なんて興味なかった

もともと、こども食堂には全然興味がなかったんです。夫が料理人だから、料理も作ってもらう方でした。

残りの人生、このままゆっくり過ごすのも良いけど、これまでいろんな人にお世話になったから、恩返しをしようかなって。それで、こども食堂についてもう一度考えてみようとして去年の12月に北本市社会福祉協議会に相談に行っただんです。「うちは週1しかできないんですけど」って話したら「十分です」って（笑）。話を聞いて自宅でカレーを作るくらいならできるかもと思って、今年の2月から「みやうち子ども食堂」を始めました。

ここに来る子たちはひ孫みたいなもの。コロナでお休みしたら、こどもたちが「大丈夫だった？」って心配してくれたのが嬉しかったね。だんだん「この子たちが成長するまで長生きしたい」って思うようになりました。

今は毎日スマホでレシピばかり調べてます。美味しいものを作って、こどもたちに喜んでもらいたいから。こんなことなら、夫にもっと料理を教わっておけば良かったな（笑）。



### みやうち子ども食堂

☎ 毎週木曜日  
📍 お問い合わせください  
☎ 592-6506 ※要問合せ



## こどもの居場所が私にくれたもの

学校でボランティア募集のチラシをもらったのがきっかけで、北本市社会福祉協議会のフードパントリーのお手伝いに参加しました。それから、社協の方に声をかけられて、いろんなこども食堂のお手伝いをしています。

よく参加しているのはすまいる食堂。「高校生のお兄さんも来てるし、ももちゃんも来てみる？」って誘われて。お母さんと一緒にお菓子作りや料理をしたりして、楽しいなって思ってたから、料理を覚えるいい機会だと思って参加しています。初めは包丁も握らせてもらえなかったけど、一緒に料理を作る皆さんや料理人の樋口さん（上写真左端）が優しく教えてくれるので、ずいぶん上達したと思います。

こども食堂のお手伝いに行くようになって、いろんな年代の友だちが増えました。スタッフさんやそこで知り合った同年代の子たちと仲良くなれたし、小さい子も可愛くなって思います。こども食堂は友だちを作る場所って感じです。

## ここは友だちをつくる場所

樋口 ももさん（写真右から2番目）



### すまいる食堂

☎ 毎月第2日曜日  
📍 コミュニティセンター  
（本町8-156-3）  
☎ 048-786-6005  
（保泉）※要問合せ



## 雑木林でこどもが自由に

## 遊びを発見する冒険遊び場。

「もりとこプレーパーク」には決まったプログラムはない。木登りロープやハンモック、シャボン玉液などで遊んだり、たき火の番をしたり、草むらで虫取りをしたりと、こどもたちが雑木林で自由に遊びを発見する。「これもやって良いんだ」「あれもやっていいんだ」と気づくことで、こどもは遊び育っていくんです」と、代表の室伏結子さんは話す。

一時休止していた「もりとこ」を、室伏さんとプレーワーカーの佐々木めぐさんが中心となって今年の4月から再開した。めぐさんは、「私の役割は遊び場の環境を見守ること。こどもが気づけない危険『ハザード』を取り除きつつ、こどもが気づける危険『リスク』は残します。こどもたちがリスクを背負った上で冒険したいという気持ちを大事にしているからです」と語る。それを大人たちが温かい目で見守れば、どこでも遊び場になるという。「こどもが3人いるお母さんに、『公園はこどもから目を離せないけど、『もりとこ』は他の親御さんも見守ってくれているから安心して来れます』と言われた時は嬉しかったですね」と室伏さんは話す。

## もりとこプレーパーク

☎ 日曜日（月1回）  
10:00～14:00  
直近は10月13日、  
11月9日（土）・10日（日）※連日  
📍 市民緑地4号（北本宿158）  
📍 冒険あそび村（Instagram：  
@moritoko.kitamoto）



「つまらないっていう想いも大切。どうしたら楽しく遊べるか、次のヒントにつながるから」